

20 years Smart Factory – Lessons learned and future challenges スマートファクトリー20年： 得られた知見と今後の課題

講師：Prof. Dr.-Ing. Dr. h.c. Detlef Zühlke
SmartFactoryKL 創設者 /
ドイツ・カイザースラウテルン工科大学 名誉教授



日時：2025年11月21日（金）10:45～12:15
会場：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス
スマートエネルギー棟 ステージエリア
言語：英語

事前申込不要/どなたでもご参加いただけます。
ご来場の際は、お名刺をお持ちいただけますと幸いです。

【講演概要】：2005年、世界で初めてのスマートファクトリーが、ドイツ・カイザースラウテルン(DFKI内)において、産学官連携(PPP: Public-Private Partnership)によって設立されました。産業界・学术界・行政が密接に協力することで、スマートファクトリー技術のためのテストベッドが構築され、これは後に世界各地で展開される取り組みのモデルケースとなりました。ここで行われた先駆的な研究・実証は世界へと広まり、2011年に「インダストリー4.0」という概念へと結実しました。これを起点として、インダストリー4.0は世界中の先進工業国へと急速に拡大していきました。それから20年が経過した今、当初のヴィジョンを振り返り、成果と現在の課題を見つめ直すことが必要です。本講演では、これまでの取り組みを概観するとともに、今なお残されている課題や今後の展望について議論します。

【デトレフ・ズールケ教授 略歴】

RWTHアーヘン工科大学にて電気工学およびコンピュータサイエンスの修士号を取得後、同大学にてロボティクス分野で博士号を取得。2018年に退職するまで、カイザースラウテルン工科大学にて生産自動化の教授を務めるとともに、ドイツ人工知能研究センター(DFKI)において「Innovative Factory Systems (IFS)」研究部門のディレクターを兼任。

また、2005年から2019年まで、スマート製造分野の国際的研究拠点として知られるSmartFactoryKL (<https://smartfactory.de/>)の理事長を務め、Industry 4.0(インダストリー4.0)パラダイムの開拓者として世界的に知られている。研究領域は、産業用制御アーキテクチャ、工場計画と運用、人と機械の協働システムなど、多岐にわたる。

主催：ドイツ人工知能研究センター日本研究所
協賛：大阪公立大学大学院情報学研究科

本件連絡先：
大阪公立大学 研究推進課 協創研究センター
DFKI担当 プロジェクトコーディネーター
水野 r-mizuno@omu.ac.jp